

予 算 決 算 常 任 委 員 会

1. 日 時 平成29年9月15日（金）

午前9時30分 開会 午前11時49分 休憩

午後1時10分 再開 午後3時07分 閉会

2. 場 所 本会議場

3. 出席委員 【予算決算常任委員会】

灰田昌典委員長、宮西健吉副委員長、南藤陽一委員、井田秀喜委員、木下裕介委員、新田寛之委員、吉村範明委員、浅村起嘉委員、梅田利和委員、吉本慎太郎委員、高野哲郎委員、片山瞬次郎委員、出戸清克委員、二木攻委員、宮川吉男委員、川崎順次委員、橋本米子委員、表靖二委員、浅野清利委員、北出隆一委員、杉林憲治委員

4. 欠席委員 なし

5. 委員会の議題

議案第54号 平成29年度小松市一般会計補正予算（第3号）

議案第55号 平成29年度小松市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）

議案第70号 専決処分の承認を求めることについて

議案第71号 平成28年度小松市歳入歳出決算の認定について

議案第72号 平成28年度小松市公営企業会計決算の認定について

議案第73号 平成28年度小松市公営企業会計未処分利益剰余金の処分について

6. 委員長報告の要旨

【予算について】

■議案第54号 平成29年度小松市一般会計補正予算（第3号）について

地域おこし推進費については、南部里山エリアの活性化を図るため、総務省の特別交付税を活用し、今後整備予定の栗津温泉交流広場を中心に、地域住民と共に地域おこし活動に従事してもらう地域おこし協力隊2名の活動経費とのことでもあります。協力隊には、周辺観光地への誘客促進策、広域連携プロデュースを行ってもらうとのことですが、新たな人材を取り入れるからには、

すばらしいまちづくりに努めるよう求めました。

【決算について】

■議案第 71 号 平成 28 年度小松市歳入歳出決算の認定について

職員人件費については、消防職員の定数について、本市の安全・安心のため業務に支障が生じることがないように、また、消防団員についても地域の安全・安心のため、団員の確保に努めるよう求めました。

■救急業務高度化推進費については、救急救命士の養成を行う経費とのことですが、今後も継続して救急救命士の新規養成に取り組み、目標人員となるよう求めました。

■選挙常時啓発費については、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられたことにより、県と連携し高校生を対象に出前講座の開催等を行っているとのことですが、今後は、教育委員会と連携し、従来より行っている小中学校での模擬投票の更なる実施、公立小松大学との連携による新たな取り組み等、若年層に対する様々な啓発活動を行い、投票率向上に努めるよう求めました。

■老人福祉センター運営費については、老人福祉センター千松閣の運営委託を行うものでありますが、高齢者の憩いの場として毎年延べ 3 万人を超える利用者があり、多くの市民から継続を望む声が出ていることから、今後も施設の機能維持を図っていくよう求めました。

■学校運営費の学校給食調理等業務委託料については、更なる安心・安全な学校給食を推進するため、民間の専門知識・技術を活用した調理業務等の委託を小学校 2 校、中学校 1 校で試行してきたものでありますが、平成 27 年 10 月から平成 29 年 3 月までの試行期間の中で得られたメリット・デメリットをしっかりと評価・検証し、今後の業務委託につなげていくよう求めました。

■ひとつものづくり科学館応援金については、未来を担う子供たちに科学やものづくりの楽しさを知り、体験してもらおう活動を充実していくため、市民や企業、団体から資金の支援（寄附）を受け付けるものでありますが、今後、サイエンスヒルズこまつを応援するサポーターの裾野をより広げていくためにも、現在の一口あたりの寄付金額について見直しを求めるとともに、PR や募集活動についても積極的に行っていくよう求めました。

■医療費助成費の心身障がい者医療費については、身体障害者手帳 1 級から 3 級、療育手帳 A・B を所持する障がい者の医療費自己負担分を助成するものでありますが、所得基準の緩和について検討を求めました。

■「こころの電話」相談費については、年間約 1,700 件の相談を受け付けているこころの電話カウンセラーの謝金等に要する経費であります。カウンセラーから、ジェット機の騒音により電話が聞き取りづらいとの声が聞こえているため、部屋の防音改修や場所の変更を検討してはどうか、との意見が出されました。

■生活路線バス運行費補助金、地域公共交通推進費については、市内の路線バス及びコミュニティバスの運行にかかる赤字を補てんするための経費であります。今後、赤字補てん金額の削減に向けたバス利用者の拡大を図るため、路線バスやコミュニティバスの利用促進キャンペーンの実施や利用環境のさらなる向上に努めていくよう求めました。

■航空プラザ管理運営費については、航空プラザは、指定管理者として（公財）小松市施設管理公社に委託しており、主な経費は、管理運営費をはじめ、多くの子ども達が訪れる“ぶ〜んぶんワールド”の大型遊具などの安全確保対策費等とのことであります。この施設は年間来場者 30 万人を超える「乗りものまち・こまつ」を代表する拠点施設であり、小松市の交流人口拡大にたいへん寄与しているものであります。一部の委員より、戦闘機等に関する展示にはそもそも反対であり、決算を認めないという意見が出されました。

■誘客推進支援費については、那谷寺開創 1300 年をはじめとする交流人口拡大事業等への開催補助金とのことであります。事業の効果を検証した上で補助金の支出に努めるよう求めました。

■全国子供歌舞伎フェスティバル開催費については、フェスティバル開催に伴う実行委員会への交付金とのことであります。フェスティバルでの勧進帳公演など市内での発信だけではなく、県外や海外へ出向き、小松を発信する努力が必要なのではないかとの意見が出されました。

■レンタサイクル運営費については、小松駅、粟津駅、粟津温泉周辺の 3 地区でのレンタサイクル運営経費とのことであります。観光客のニーズに合わせた改善を図るためにも、状況に応じて次のステップへと進めるよう求める意見が出されました。

■北陸新幹線建設推進費については、出来高に応じた建設負担金を県へ支出したもののことですが、一部の委員より、地元負担が発生することなどから、決算認定に反対であるという意見が出されました。

■鉄道高架下活用費については、JR 西日本からの鉄道高架下土地賃借料とのことですが、多額の賃料でもありますので、今後、新幹線高架下にもスペースができることを見越し、有効な活用

策を検討するよう求めました。

■循環型社会形成推進費については、DBO方式で進めている（仮称）エコロジーパークこまつ・クリーンセンター建設工事費及び事務費とのことであります。現在、平成30年7月の稼働に向けて順調に工事が進捗しているところであり、平成28年度末の出来高は13.5%とのことです。クリーンセンターの運営は特別目的会社、いわゆるSPCに任せるとのことでありますが、日常業務に対するチェック機能等、行政がしっかり関わっていくことや、稼働に際してSPCとの緊密な連携を図るとともに、今後の運営体制について議会へ説明を求めました。

なお、採決の結果、議案第54号、議案第55号、議案第70号、議案第72号及び議案第73号の以上5件は全会一致をもって、議案第71号は賛成多数をもって、いずれも原案どおり可決・承認・認定すべきものと決し、法定報告を了承することとした次第であります。